

## 令和5年度第1回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録

日時 令和5年4月26日(水) 14時00分～15時50分  
場所 事務局5階大会議室  
出席者 赤塚、岩崎、大石、大須賀、鈴木、鶴見、野田(Web参加)、望月の各委員  
日詰、塩尻、川田、森田、大場、川村、佐藤、鎌塚、本橋の各委員  
欠席者 出野、加藤、栗村の各委員  
陪席者 高倉、金原、近藤の各副学長、鈴木、河島の各監事

議事に先立ち、議長から、新たに就任した大石委員について紹介があり、大石委員から挨拶があった。

続いて議長から、鳥居委員が委員を退任された旨の報告があった。また、新たに就任した学内委員(佐藤委員、鎌塚委員)の紹介があり、各委員から挨拶があった。

### I 前回議事録の承認

令和4年度第8回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録(案)を原案どおり承認した。

また、川田委員から、前回の報告事項2「令和3年度監事業務監査改善要望事項に対する改善措置事項」で野田委員より質問があった「サイバー攻撃に対するリスク回避のための保険等」については、国立大学協会の国立大学法人総合損害保険において情報メディア損害補償特約に加入している旨の説明があり、前回議事の訂正があった。

### II 審議事項

#### 1 静岡大学の将来構想について

議長から、静岡大学の将来構想について、資料1-1により、令和5年3月29日～令和5年4月26日までの会議等の開催状況、資料1-2により、第51回静岡大学・浜松医科大学連携協議会(令和5年4月24日)について報告があり、意見交換を行った。

(委員から出された主な意見等)

野田委員：「新法人設立・大学再編に係るこれまでの経緯(案)」の資料について、浜松医科大学とどのような点で表現や認識に相違があったのか。

議長：今後取りまとめて修正の意見を出すことを予定している。例えば、資料51頁の令和2年10月20日に静岡大学次期学長候補者決定の公示がされた時の私の発言内容に関する記載について、当時の記録で確認したい点がある。また、資料54頁の令和4年3月31日の文部科学省大学改革強化推進補助金について、検討会の評価結果だけでなく所見も重要であるので、所見を含めて記載した方がよいと考えている。

野田委員：その辺りのスタンスの違いは明確にしておくべきと思うので、改めて整理したうえで共有して頂きたい。

鶴見委員：検討会の評価結果がCだったことについて、大学経営に対してどのような影響があるのか。

議長：大学改革強化推進補助金については、何を達成したらよいかという観点

からすれば、法人統合まで進むことが目指されたと思うが、それが実現できなかったことが、この評価結果の背景にあると理解している。その際の評価の所見も大事にしていかなければならないと考えているが、その辺りの受けとめ方、或いは所見の受けとめ方が本学と浜松医科大学で相違があるのかという点は、連携協議会の議論の焦点になると考えている。

この評価結果については、今後本学が申請する補助金全体に影響を及ぼすことはないと考えている。

赤塚委員：前回の経営協議会では、期成同盟会の設置など拗れているところを解きほぐすための作業をこれからしなければならぬと理解していたが、その作業が二大学の改組にどのように繋がるのか見えない。

また、静岡大学内のキャンパスや学部ごとの意見の違いはどのように表現されているのか。経営協議会の委員から出た意見は、浜松医科大学に伝わっているのか。

議長：キャンパスや学部ごとの意見の違いは、一部には表現されている部分があると思うが、経営協議会における意見は一切入っていない。この資料には出来事だけを事実として明確に記載する必要があるという意見を申し立てている。

赤塚委員：連携協議会の議論の内容を報告して頂き、それに対する意見を経営協議会で述べているので、それがどこでどのように活かされるのか。前回の経営協議会では浜松市の考え方と乖離があるので解きほぐすためには一度立ち止まった方がよい旨の意見を申し上げたが、聞き置くだけならば意見を求められること自体にどのような意味があるのか。

議長：経営協議会の委員からご指摘のあった点を話す機会はあると思うが、その点をどのように整理するのか、明確に回答できる準備が出来ていないので、赤塚委員のご指摘は心に留めておきたい。

望月委員：この議題は「静岡大学の将来構想」であるので、浜松医科大学との連携協議会の報告だけでは済まない。前回の経営協議会において、静岡、浜松両キャンパスの壁を取り除くことや静岡キャンパスとしてのビジョンの創出をお願いしたが、静岡大学の将来構想に対する課題をどのように進めるのか示していただきたい。また、統合再編の問題を含めて地元の理解を十分に得ながら進めていくことなので、静岡市と浜松市の新市長には挨拶や状況の説明をする予定があるのか、その場合はいつ頃を予定しているのか。

議長：この議題の報告において、本学がどのような将来構想を持っており、どのように進めていくのかといった報告がほとんどなされていなかったことはご指摘のとおりで反省している。新年度はそれらの課題に対して、前回のリーダーシップのところで指摘いただいたような形で方向性や日程をどのように示すのかは、非常に大事な点であるので今後検討させていただきたいと考えている。また、静岡、浜松の両市長への挨拶は、今後時期をみて伺わなければならないと考えているが、現状では日程は決まっていない。

望月委員：出来ましたら、次の経営協議会までに両市長へご挨拶していただき、その点も報告していただきたい。

議長：今後、両市にどのような日程で伺えるか確認する。

鈴木委員：経緯の資料について、この中には課題として改善をしなければならないことに関しての記述がほとんど無いが、その辺のところは動いていると捉えてよいのか。

議長：経緯の資料は、事実関係の受けとめ方に両大学で齟齬があるため、お互いにこういう事実関係のもとにこういう考え方でこれまで行ってきたという共通理解を得るために作成することになった。そのため、課題や改善すべき点については、この事実関係の資料をもとに詰めていくことはあるかもしれないが、この資料を最初に作成する段階ではそこまでの話にはなっていない。場合によっては、解釈や評価が加わる場所もあると思うが、それをどう受けとめるのかは、恐らく連携協議会で今後議論していくことになるだろうと考えている。

鈴木委員：補助金でC評価という厳しい評価を受けているが、それに対して改善がされているところを文部科学省に見せていかないと大学としてはあまり良い状況ではないと思う。統合が実現しなかったことで評価された部分もあるだろうが、何か行動していることが見えるような内容を検討していただきたい。

議長：その点は所見の中に結構含まれていたもので、資料に入れ込んで、お互いにどういう努力をすればいいのかを話し合うことは重要と考えている。

## 2 学長選考・監察会議委員の選出について

議長から、委員の退任に伴う学長選考・監察会議委員の選出について、概要説明があった。続いて佐藤委員から、資料2（席上配付）により、業務、組織、任期、前回選考の経緯等の説明があった。

続いて鈴木委員から後任の委員の選出について、各界のバランスを考慮し大石委員を選出したい旨、提案があり、審議の結果、大石委員を選出し、併せて当該委員の承諾を得た。

最後に、議長から教育研究評議会が選出する学内委員について、4月19日開催の第1回教育研究評議会において4名を選出した旨、報告があった。

## III 報告事項

### 1 令和5年度静岡大学入学試験状況について

塩尻委員から、令和5年度静岡大学入学試験状況について、資料3により報告があった。

### 2 第4期中期計画の変更の認可について

森田委員から、第4期中期計画の変更の認可について、資料4により報告があった。

### 3 施設長寿命化計画の改訂について

佐藤委員から、施設長寿命化計画の改訂について、資料5及び参考資料（席上配付）により報告があった。

(委員から出された主な意見等)

鶴見委員：1点目に浜松キャンパスの老朽化率17%について、現実的にこのような低い値で済んでいるのか。2点目に参考資料3 1頁の整備計画について、国の補助等の担保が決まった時点で進めるのか。

佐藤委員：1点目について、浜松キャンパスは既に改修が済んでいる施設もあるため、改修済を除けば17%であり、静岡キャンパスは今後改善に向けて国に予算措置を要求していく状況である。2点目について、メンテナンス維

持管理費は学内予算から措置して安全確保に努めているところであるが、大規模な改修は現状を国に訴えて予算化に向けてしっかりと取り組んでいきたい。補正予算等の前倒しで予算措置されることもあるので、それらを活用しながら改善に向けて取り組んでいきたい。

岩崎委員：静岡地区の耐震性能はどのような状況か。

佐藤委員：取り壊す予定の建物等を除き建物の耐震化は済んでおり、安全性は確保されている。

岩崎委員：設備の更新について、エネルギーコストが相当な負担になると思うので、省エネ性能の高いものに更新することを心掛けていただきたい。

鈴木委員：アスベスト処理については、国の援助を含め、もっと早く工事しなくて大丈夫なのか。

施設課長：床のPタイル等の成形物に含まれるアスベストは、成分として封じ込められており飛散はしない。調査や改修に伴って産業廃棄物として発生するため、適切に処分する。

鈴木委員：人体に影響は無いのか。

佐藤委員：封じ込めてあるので人体に影響は無い。改修にあわせて撤去することになる。

野田委員：地震のリスク管理について、地震の規模に応じた被害のシミュレーションのデータを入手するなど対策を講じているのか。

佐藤委員：建築基準法上の耐震基準であるI<sub>s</sub>値が0.3未満の場合は非常に危険なため、静岡ではI<sub>s</sub>値を0.9まで引き上げることが目標になっており、安全性の確保に繋がる。本学でも耐震化をする際には、その水準で補強計画を立てる、或いは改築を行っている。

#### 4 グリーンキャンパス構築指針・行動計画及びエネルギー管理マニュアルの改訂について

佐藤委員から、グリーンキャンパス構築指針・行動計画及びエネルギー管理マニュアルの改訂について、資料6及び参考資料（席上配付）により報告があった。

(委員から出された主な意見等)

鶴見委員：計画の実現には職員や学生の一人一人の行動が重要になるが、一般企業では従業員に行動指針のカードを配付し、個別目標を立ててもらい全体目標の実現に向かう取組みをしているが、その点は如何か。

佐藤委員：このマニュアルの策定を契機として、学内の取組みを把握し、行動変容に繋がる取組みを加速させたいと考えている。また、節電だけでなく、ペーパーレス化に向けた取組みも今後加速させていきたい。

#### 5 第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標について

森田委員から、第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標について、資料7により報告があった。

#### 6 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について

金原副学長から、第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について、資料8により報告があった。

(委員から出された主な意見等)

鈴木委員：ダイバーシティに関する目標と達成状況は如何か。

本橋委員：女性教員比率について、第4期中期計画では18%以上を目標としており、現状では17.6%であり目標に近い値に達している。

森田委員：第3期中期目標期間では、女性教員比率は目標を達成し上回っている。今期についても目標を達成できるように人事等でチェックをしながら進めていきたい。

鈴木委員：年齢構成で高齢の教員が多いところはマイナス点になるので、目標を立てる際はその点を考慮して、それなりの目標値を作る方がよい。

森田委員：理系の学部は若手の助手や助教を採用して育てる傾向があり、文系の学部は講師等のように一人でやっていくことができる方を採用する傾向があるので、分野によって事情が異なる。また、第4期中期計画では、採用時の年齢を基準として若手(40歳未満)の採用を進めることを目標に切り替えており、実現可能な目標値として実効性もあると考えている。

#### 7 令和4年度教職大学院認証評価の評価結果について

金原副学長から、令和4年度教職大学院認証評価の評価結果について、資料9により報告があった。

#### 8 令和3年度実施大学機関別認証評価結果への対応状況について

金原副学長から、令和3年度実施大学機関別認証評価結果への対応状況について、資料10により報告があった。

### IV その他

#### 1 令和5年度国立大学法人静岡大学経営協議会の開催日程について

議長から、令和5年度国立大学法人静岡大学経営協議会の開催日程の一部変更について、資料11により案内があった。

#### 2 静岡大学関連記事

議長から、静岡大学に関連する新聞記事について、参考資料として紹介があった。

以上